二〇一五年六月一二日

座布団に手足伸びきり昼寝の児　なつき

二〇一五年六月一一日

踏切を渡る田植機泥落とす　宏虎

併走すカヌー三艇水脈涼し　泰山

老鶯の声を間遠に講義聞く　せいじ

二〇一五年六月一〇日

夕風の潮入川を海霧走る　よし女

青蔦でうずまる丘に風通ふ　豆狸

万緑と万緑つなぐ斜張橋　菜々

瀬の風の足元過ぐる蛍狩　さつき

二〇一五年六月九日

あじさゐの戸毎に艶を競ひをり　満天

蔦若葉鎧ひて立てる展望台　豆狸

時の日を刻む明治の掛時計　三刀

二〇一五年六月八日

相席となりし乳児の笑み涼し　ひかり

ウエディングドレスに映ゆる新樹光　豆狸

二〇一五年六月七日

暮れなずむ余韻に蛍待ちにけり　泰山

先生の笛に駆け出す遠足子　豆狸

二〇一五年六月六日

ま青なる空へ直立夏木立　豆狸

水田へと切り返してはつばくらめ　はく子

初なすび洗へばきゅっと鳴きにけり　菜々

毎日句会みのる選・二〇一五年六月一四日